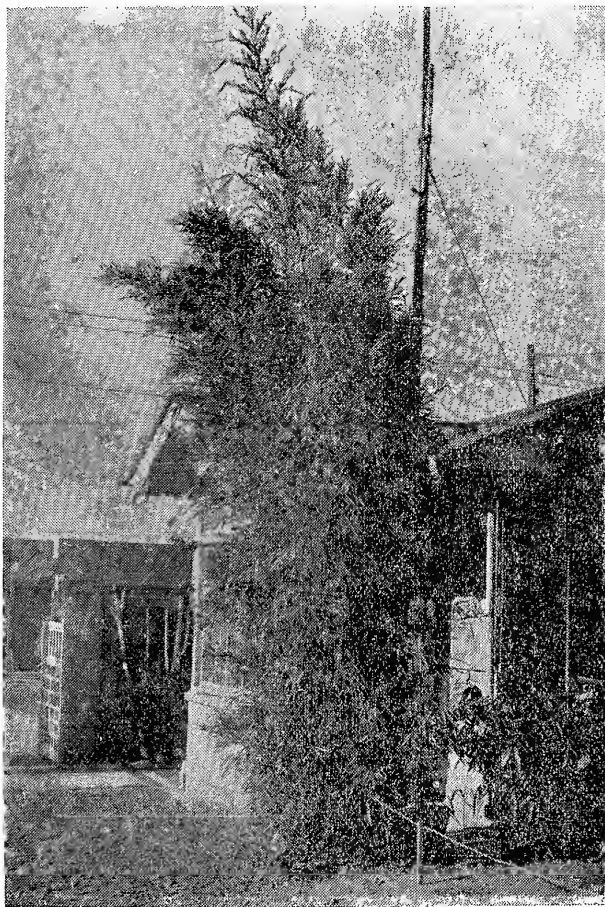


○ナリヒラチクに花が咲きだした（久内清孝） Kiyotaka HISAUCHI : *Semi-arundinaria fastuosa* has started its flowering periodicity.

例年の通り国立科学博物館が本年もよおした、さく葉の展示會に新潟の池上義信氏が出品したものゝうち、同氏が新潟縣中蒲原郡矢代田で、昨年6月4日に採集されたナリヒラチクの花のおしぼがあつたが、東京でも石田肇氏が、本年2月4日に文京區學藝大學の構内で見つけて寫眞をとられた。その寫眞がこゝに出した寫眞である。石田氏はこの外都内で2回見ている。ナリヒラチクの花が過去において、いつ咲いたか記憶していないので、牧野先生にたずねたら、多分明治の後期らしいとのことであつた。し



東京學藝大學構内で花をつけたナリヒラチク（石田肇氏寫眞）

て見ると、このタケの開花の周期がほぼその位であると思われる。なにぶんにもおもしろいので一應しるしておくことにした。尚ナリヒラチクの花について、牧野先生は明治33年4月發行の中學世界3の5に、花を見ることなき竹としてナリヒラチクを數えているが、坪井伊助氏の竹類圖譜（大正3年）に花の圖があり、牧野先生の日本の竹類（大正元年8月發行のサイエンス2巻8號）に「花ハメツクニ咲カナイガ極メテ罕ニ出ル」と述べられ、更に植物學雜誌26巻8號（大正元年）に英文で花を所藏されているので

後日記相するつもりだと記されている。以上のような、文献上の事實は前述した先生の記憶と殆んど一致する。したがってその頃が過去における花期で、またこの頃になつて、つぎの花期がめぐつて來たものと思われる。したがって今後各地から、ぞくぞく開花が報告されるであろう。尙石田氏によれば何れも實を結ばないとのことである。

*Semiarundinaria fastuosa* bears flowers very seldom. The last record is believed to have been some 1912 and it began to flower recently in Niigata and Tokyo. This shows that its flowering periodicity is about 40 years.

**○東三河のコウラボシとアカメイノデ** (鳥居喜一・倉田悟) Kiichi TORII and Satoru KURATA : *Lepisorus Uchiyamae* and *Polystichum Kurokawae* from Prov. Mikawa.

(1) コウラボシ *Lepisorus Uchiyamae* (Makino) H. Ito in Journ. Jap. Bot. 11: 93 (1935); Tagawa in Acta Phytotax. Geobot. 14: 47 (1950).

本邦南部の海濱に近い岩上に着生する羊歯であるが、東三河にも分布している事が明らかになった。本羊歯は囊堆を被う楕状鱗片が卵形乃至披針形にして偏心的な柄を有し、根茎の鱗片が線状披針形なる點が最も良い特徴であると、田川氏が解明しておられる。東三河の自生地としては今迄鳳來寺村椎平、舟着村吉川及び舟着山の三ヶ所が判明している。何れも海岸からは大分距つた場所ではあるが豊川の沖積地帯には近く、又一方、遠江側に濱名湖がずつと入り込んで來ている。

椎平の自生地は海拔 120m 位の段々畑の東南面せる石垣にして、イクチシダ、イヌシダ、マメズク、ノキシノブ、タチシノブ、ハシゴシダ、ヒメウス、カタバミ、チャ、オニタビラコ、タンポポ類等と一緒に生育しており、附近の陰濕なる谷にはタキミシダ、ヌリトラノオ、イワヒトデ、ヒロハシケチシダ、シロヤマシダ、ヤノネシダ、クリハラシ、オオバノハチジョウシダ、シシラン、ミヤマムギラン等の他、ヤマドリシダが自生していると言つた様な地域である。次に吉川では路傍の南面せる岩壁にして、ノキシノブ、ホラシノブ、ヒナギキョウ、ワタナ、コウゾリナ等が僅かに生育し、船着山でも段々畑の東南面せる石垣であつて、イヌシダ、ノキシノブ、チャ等と混生している。以上何れも人爲的な南面せる石垣、路傍岩壁に生育し、その植生も乾性的であり、海濱に近い岩上と相通ずる環境を示すものと考えられる。

尙、コウラボシは伊豆半島、駿河久能山等にも報告はあるが、之等は再檢の要がある。何れにしても東三河は北限産地に數えられるべき地方である。

(2) アカメイノデ *Polystichum Kurokawae* Tagawa in Acta Phytotax. Geobot. 14: 17 (1950), nom. seminud., in Journ. Jap. Bot. 26: 20 (1951).

本羊歯は三重縣の赤目峽を type locality とし、其後奈良縣の香落溪、大阪府の岩